

投票時間の短縮が若者の投票率に与える影響*

1230524 藤田虎太郎

指導教員 矢内勇生

研究背景

日本の選挙における投票率は低下しており、若者に原因があると指摘されている。特定の世代の現在の投票率は将来の投票率を予測するため、低投票率の原因となる若者に焦点を当てた研究は将来の投票率に関わる重要なものである。投票時間の延長は投票コストを減少させ、若者の投票率を高めることが明らかになっているが、投票時間は短縮される傾向にあり、その影響を確かめることが必要である。

研究目的

本稿の目的は、投票所における投票時間を短縮した投票所の割合が若者（20歳から24歳）の投票率に与える影響を明らかにすることである。投票時間の短縮が若者の投票率に与える影響が明らかになれば、投票所閉鎖時刻の決定への一助となる。

研究方法

38都道府県における2005年から2021年までの衆議院議員総選挙が実施された年のパネルデータを用いて分析を行う。結果変数として若者の投票率、処置変数として投票所における投票時間を短縮した投票所の割合を用いた二元配置固定効果モデルを用いて、投票時間を短縮した投票所の割合の係数を最小二乗法で推定する。

分析結果

投票所における投票時間の短縮が若者の投票率に影響を与えることは確認できなかった。その原因は、早い時間に投票へ行く若者が多い地域で投票所の時間短縮が多く行われ、遅い時間に投票へ行く若者が多い地域では投票所の時間短縮が少なかったことにある。

結論

投票時間の短縮は各都道府県選挙管理委員会によって慎重に行われている。しかし、本稿の結果は効果が不明というものであり、投票所の時間短縮を奨励するものではない。本稿は日本の若者の投票率について投票所の時間短縮に注目した新しい分析であり、学術的に貢献する。

* 年代別投票率、投票所数、投票所の開閉時刻についてデータ提供をくださった各都道府県選挙管理委員会の皆様に心より感謝申し上げます。本稿の執筆にあたり、指導教員である矢内勇生先生には研究のアイデア、データ収集、執筆まで多大なるご指導を頂きました。ここに感謝の意を表します。本当に有難うございました。